平和な朝鮮半島の実現に向けて

私たちの運命は私たちが決める

金　源道

2018年8月の光化門

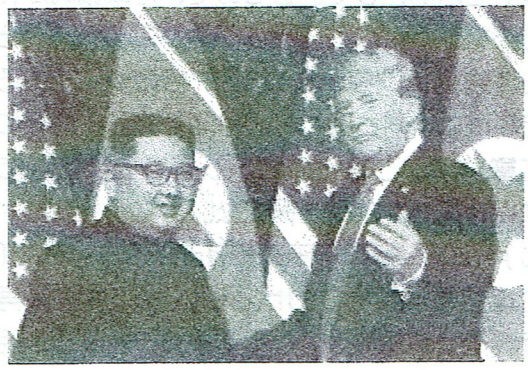
今年の8月15日は特別な思いを持ってソウル・光化門にいた。16年から17年にかけ「キャンドルデモ」が行われ朴槿恵政権を退陣させたキャンドル革命の地である。今年4月には板門店で南北首脳会談が、6月にはシンガポールで朝米首脳会談が開催され、朝鮮半島に劇的な変化が訪れた今こそソウルでその風を感じたいと考えたからである。しかしそんな私の気持ちとは真逆の風景を目にした。私が目にしたデモは異様としか言いようのない物で、アメリカの星条旗と韓国の大極旗が並んで振られ、デモをしている人たちは歓喜に沸いていた。キャンドルデモとこのデモ。同じ光化門で行われているデモで、ここまで歴史認識に差があるのかと愕然とさせられた。この人たちはアメリカに韓国の生存権を売り渡したいのかと思えるものだった。

ある人は星条旗を体に巻きつけ「文在寅は出て行け」と叫び、ある人は両国の国旗を力強く振りながら「板門店宣言は認めないぞ」と叫んでいた。このデモは親米反北極右の「大韓愛国党」のデモであった。ソウル市庁から光化門へと延々と続き、数万人の参加者がいたと思うが、たまたま参加者と短い時間話す機会がありデモについて聞いたら、彼・彼女は「北は信頼できない。我々を守ってくれるのはアメリカだ」と自信たっぷりに話していた。朝鮮半島の緊張が緩和され、まさに平和と繁栄・統一の時代に差し掛かった今、こんなデモをする人たちがこんなにいるのかというのが私の率直な感想である。尚、拡声器の積まれたトラックの上にはイスラエル国旗も掲げられていた。

植民地時代にも日章旗を振り「日本の属国・植民地になることこそわが民族の生きる道」と唱えていた人がいることを思うと、こんな人たちに絶対負けられないという気持ちが湧き出て来る。

確実に変化する朝米関係

今年に入ってからの朝鮮半島の変化については、多くの識者や仲間のみなさんがすでに文章や発言で正しい認識を示しているので、ここでは今後の推移について予想（希望的観測も含め）を書きます。



この稿が出るころにはアメリカの中間選挙が終了し、新しい議会の構成が決まっているでしょう。歴代大統領の中間選挙はほとんどが負けていることを考慮に入れれば、もしも共和党が負けることがあっても、トランプ大統領がレームダック（役に立たない人）状態になることはないだろう。トランプ大統領に対抗する次期大統領候補は共和党に見当たらないし、CNN 等の調査によればトランプ大統領の支持率は 40%を超え、共和党支持者に限れば90％近くの支持があり、再選に向けて全力でアクセルを踏むでしょう。彼を支持する「白人、キリスト教福音派、ラストベルト地域」の人々からの支持を取り付けるために、矢継ぎ早に政策を打ち出している。中国との貿易戦争の強化、移民排斥と中米3カ国への援助見直し、中間層への追加減税、トランスジェンダー排除、中距離核戦略（INF）廃棄条約の破棄などである。そのような公約を打ち出すたびに支持率は上がっている。

中間選挙後の体制立て直しと、再選のための政策を練ることで一定の時間はかかるだろうが、1月過ぎに予定されている第2回の朝米首脳会談は開かれるはずだ。10月にロシアを訪問したボルトン米大統領補佐官（国家安全問題担当）も「来年1月以降になるだろう」と表明している。会談するという事はお互いに何らかの前進をさせたいと考えているから会談するのであるから、今懸案である「終戦宣言」（表現としてそうなるかは別だが）と9月平壌宣言第5項目①東倉里エンジン試験場とミサイル発射台の永久破棄②寧辺核施設の永久破棄以上の「北の核放棄の前進」が同時に進む可能性が出てきた。開催時期場所について年明けには発表されるだろう。金正恩委員長も何が何でも成功させたいはずである。朝米会談に否定的な人は「融和先行路線は北朝鮮が核兵器をため込み、在韓米軍

の機能も下がる。北朝鮮が武力統一に動く余地を与えてしまう」(日経 18/10/10 秋田浩之)と見当違いの見解を表明している。一歩一歩段階的に進む朝米関係は第2段階から第3段階(平和協定、国交正常化、制裁解除)へと向かうだろう。

朝日関係の課題

朝日関係は今後どのようになるのだろうか。百枚舌、パフォーマンス先行の安倍首相は昨年「国難」と激しく朝鮮を非難したが、10月24日の施政方針演説では「拉致、核、ミサイルの問題を解決し、不幸な過去を清算し、国交正常化を目指します」と昨年とは真逆の発言をしている。彼の政治家としての使命は「憲法改悪」のみで、それ以外の事は全て支持を繋ぎとめるためのその場限りでの方便である。朝日関係は02年の平壌宣言、14年のストックホルム合意で方向性を示しており、植民地支配の精算が何よりの課題だが、話し合いの過程の中で「朝鮮学校の無償化」を是非議題として取り上げ、安倍政権の本気度を聞いてみたいものだ。

状勢を変化させた文在寅大統領と金正恩委員長

情勢をここまで変化させたプロデューサーは文在寅大統領です。17年5月10日の就任あいさつで「朝鮮半島の平和のために東奔西走します。必要とあれば、すぐにワシントンに飛んでいきます。北京と東京にも行き、条件が合えば平壌にも行きます」と述べ、南北関係を改善し恒久平和体制の構築に意欲を示していた。続いて17年7月6日のベルリン宣言では「第1に私たちが追及するのは、ひたすら平和です。第2に北朝鮮の体制の安全を保障し、朝鮮半島の非核化を追求します」と述べていた。今年に入ってからは平昌オリンピックを南北対話再開の契機として、最大限活用し現在の南北の信頼関係を構築した。

勿論、朝鮮民主主義人民共和国(朝鮮)の金正恩委員長の大胆で計算された政策変更もある。専軍政治から併進路線へ、そして現在の経済建設へと発展している。経済建設のためにも米国との平和共存体制構築は急がれている。

おわりに

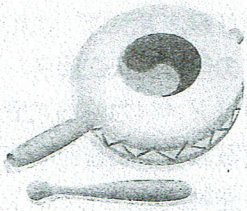
朝鮮半島の平和と繁栄、統一がどう保たれるのかは変数(各国の利害関係)が多く不確実性があるが、大事なことは冒頭に述べた「親米反北右翼」の台頭を許さないことである。韓国の歴史は民主化、統一の声がかき消された歴史でもある。李承晩、朴正熙、全斗煥の退陣の後、本来は民主化が進むはずであったが、李明博、朴槿恵と続く政権により「拷問無き独裁が」続いた。これから先も民主主義を重んじ南北の平和と繁栄、統一を志向する政権により、政策が練られ「私たちの運命は私たちが決める」の原則に則り、南北双方の話し合いと実践により平和な朝鮮半島の実現がなされるだろう。

最後に朝鮮半島の平和に懐疑的な人たちに一言「戦争のない朝鮮半島、平和な東アジアを作ることがそんなに嫌ですか?」

3. 1独立運動100周年

朝鮮半島とのつながりを変えよう

キャンペーン

来年の3月1日は、植民地朝鮮での最大の抵抗運動である、3.1独立運動から100周年になります。

韓国併合100年東海行動実行員会は、朝鮮半島情勢が大きく変化する中で、日本と朝鮮半島の歴史を振り返り、平和に寄与する関係づくりをするために活動をしていきます。ぜひ、参加賛同をお願いします。